

行事開催報告

気象災害軽減イノベーションセンター長岡サテライトキックオフシンポジウム開催

2016年9月23日長岡震災アーカイブセンターきおくみらいにて、「気象災害軽減イノベーションセンター長岡サテライトキックオフシンポジウム」を開催し、74名の方にご来場いただきました。

第1部では、長岡サテライトのメンバーから現時点の取り組みを紹介しました。第2部では、国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所、株式会社高田建築事務所、東川口町会、株式会社スノーキャストから、防災に関わる課題解決に



第2部/ニーズ側の取り組み紹介の様子

向けた取り組みやニーズとして実際に必要な技術、仕組みについてご講演いただきました。第3部では、長岡技術科学大学、長岡工業高等専門学校、長岡IoT推進協議会から、課題解決に取り組む技術相談の仕組みやシーズについて、ご講演いただきました。第4部の意見交換会では、質疑応答、ニーズ・シーズの視点からのご要望について、パネリストの皆さんにお聞きしました。来場者の方からも活発なご意見をいただき、今後につながるディスカッションとなりました。



意見交換会の様子

行事開催報告

GITA-JAPAN 第27回 コンファレンス出展、講演を実施

2016年9月29日、30日に海運ビル（東京都千代田区）二階ホールで「GITA-JAPAN第27回コンファレンス～地理空間情報の未来～IoTを支えるGIS～」が開催され、2日間で延べ453名の方にご参加いただきました。

9月29日には、防災科研理事長 林春男による基調講演「Society5.0時代に求められる情報サービスプラットフォームへの貢献」を行いました。パネルディスカッションでは、パネリス



基調講演 防災科研理事長

トとしても登壇し、他の講演者の方々と意見を交わし、参加者からの質問に回答するなど多くの関心を集めました。



展示ブースの様子

また、29、30日の2日間、展示を行い、防災科研の熊本地震災害対策本部でも使用された「災害対応支援地図」の展示や、固定翼ドローンを用いた研究についての紹介を行いました。



パネルディスカッションの様子

第3回 行方ふれあいまつりに「地震ザブトン」体験コーナーを出展

2016年10月29日(土)と30日(日)に霞ヶ浦ふれあいらんどで行方市主催の「行方ふれあいまつり」が開催されました。

3年目の今年のテーマは「防災」。体験型イベントが多数開催される中、防災科研では「地震ザブトン」の体験コーナーを出展しました。「地震ザブトン」は、複雑な地震の揺れを再現できる可搬型の地震動シミュレーターです。



多数の来場者がみえた行方ふれあいまつり

まつりは2日間で約58,000名もの来場者があり、「地震ザブトン」で地震の揺れを体験して頂いた方々からは、「どれだけ地震がおそろしいものか改めて思い知った」「いつ地震が来るかわからないから訓練をすべきだと思った」などのご意見や感想が寄せられました。

地域の皆様の防災意識向上に役立てられるよう、今後も広報普及活動を続けてまいります。



地震ザブトン体験コーナーの様子

2016年度雪氷防災研究講演会を開催

2016年11月8日(火)に、アオーレ長岡(新潟県長岡市)において「2016年度雪氷防災研究講演会-多様化する雪氷災害から暮らしを守るために-」を開催しました。この講演会は、雪氷災害防止のための取り組みや研究成果を紹介するとともに、地域の住民や民間企業、行政担当者及び研究者などの交流を図ることを目的として、東北・北陸地方の各県を巡り毎年開催しているもので、今年で56回目を迎えました。国、自治体、民間企業、大学などから109名もの参加をいただきました。

本講演会では、新潟県内で道路管理や除雪対策に携わっておられる4名の方から最新の取り組みや知見についてご講演いただきました。また、防災科研からは最新の研究成果について2件の講演をさせていただきました。総合討論では、それぞれの立場からのニーズや、雪対策についての課題、今後の研究や技術開発の方向性などについて活発な議論が行われました。今後も、本講演会のような機会を活かし、関係機関との連携を図りながら、より一層の研究の推進に努めてまいります。



講演会の様子



総合討論



講演者 大塚克弘氏
(長岡市土木部道路管理課)

つくばサイエンスコラボ2016～科学と環境のフェスティバル～

2016年11月12日(土)、13日(日)、つくばサイエンスコラボ2016～科学と環境のフェスティバル～内の「つくば科学フェスティバル」に出展しました。つくば科学フェスティバルは、つくば市内の小・中学校、高校、大学、研究機関など、53団体が出展する科学を楽しむための体験型イベントで、つくばカピオで開催されました。

防災科研は「楽しく学ぶこわい災害」というテーマのもと、「竜巻実験」と「Dr.ナダレン

ジャーの自然災害科学実験教室」の2企画の出展を行いました。竜巻実験では、水・土砂防災研究部門の鈴木真一主任研究員、前坂剛主任研究員らが来場者の目の前で竜巻を再現し、説明を行いました。また、「Dr.ナダレンジャーの自然災害科学実験教室」では、カラーブロックを使って来場者も参加できる「固有振動実験」を行いました。Dr.ナダレンジャー実演の様子に会場からは大きな歓声が起こり、大変盛況な実験教室となりました。



竜巻実験の様子



Dr.ナダレンジャーの自然災害科学実験教室の様子

2016公開シンポジウム 徹底討論！被災地での災害対応における情報の利活用とは？

平成28年11月24日に東京国際フォーラムで、「2016公開シンポジウム 徹底討論！被災地での災害対応における情報の利活用とは？」を開催しました。本シンポジウムは、実際の災害対応にあたる実務者や有識者による話題提供及び議論を通して、災害情報の利活用や今後の防災研究の在り方について、来場者とともに考えを深めることを意図したものです。

第1部は、白田裕一郎研究統括よりSIPにおける研究開発の成果と防災科研の熊本地震にお

ける情報支援活動の基調報告、第2部では、伊勢正主幹研究員をコーディネーターに「発災直後、超急性期の情報利活用とは？」「災害対応で求められる情報のあり方とは？」のパネルディスカッションを行いました。

また、SIP、熊本地震対応、災害情報の利活用に関するポスター展示も実施しました。

参加者からは多くの質問が寄せられるなど盛況のうちにシンポジウムは終了しました。



白田研究統括による基調報告



パネルディスカッションの様子

受賞報告

ASME PVP2015 Outstanding Conference Paper Awardを受賞

2016年7月17日から21日まで、カナダ・バンクーバーで開催された米国機械学会（以下ASME）による圧力容器および配管の国際会議（2016 ASME Pressure Vessels & Piping Conference、以下PVP2016）で、地震減災実験研究部門の中村いずみ主任研究員が、ASME PVP2015 Outstanding Conference Paper Awardを受賞しました。

この賞は、前年のPVP Conferenceで発表された論文を対象とし、各部門の最優秀論文1編のみに与えられるもので、会議参加者全員の評価や各部門のTechnical Committeeの推薦を経て、Honors & Awards Committeeの審査に基づき選定されます。中村主任研究員はSeismic Engineering部門のOutstanding Conference Papers for PVP2015を受賞しました。

中村主任研究員は、「本研究は単純な形状の重錘付きエルボ配管を振動荷重により破壊させ

た実験結果に基づく弾塑性挙動の考察と、実験結果から現行の耐震設計基準に対する裕度評価を試みたもので、単純な実験ながら配管系の弾塑性振動応答挙動の予測や破損モードを取得する難しさを痛感した実験であったため、このような形で評価されたことを嬉しく思います」と語っています。



(左から)PVP Honors & Awards Committee ChairのTrevor Seipp氏、中村いずみ主任研究員、共同受賞者の笠原直人東京大学教授

受賞報告

水文・水資源学会論文奨励賞を受賞

水・土砂防災研究部門のシャクティ P.C.特別研究員が、水文・水資源学会論文奨励賞を受賞しました。

水文・水資源学会論文奨励賞は、水文・水資源学会誌又はこれに準ずる刊行物、あるいは主要な国際雑誌等に発表された水文・水資源学の発展に顕著な貢献をなした論文の著者に与えられる賞です。シャクティ特別研究員の、山岳におけるMPレーダ雨量推定技術の向上や、短時間降水予測技術の向上への寄与が高く評価され、今回の受賞となりました。

授賞式は2016年9月16日に福島県福島市で開催された水文・水資源学会 2016 年度総会・研究発表会（福島大会）で行われました。

シャクティ特別研究員は、「本研究はレーダのビームが部分的にブロックされた場合におけ

る降水量推定手法の開発と、降水の短時間予測に焦点を当てたもので、これらはフラッシュフラッドを最小化したり、管理したりするシステムにおいて非常に重要な要素となるもので、水文学および気象学分野の創造的な発展に貢献できるのではないかと考えています」と語っています。



編集・発行



国立研究開発法人 防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1 企画部広報課

TEL.029-863-7768 FAX.029-863-7699

URL : <http://www.bosai.go.jp> e-mail : k-news@bosai.go.jp

発行日

2017年1月10日発行 ※防災科研ニュースはWebでもご覧いただけます。